

再び佐倉、銚子の全ての仲間へ訴え封



80.10.4
No. 549

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二五八・九(公衆)〇三三三二七二〇七

自らの利益を守りぬぐためにも、 今こそ動労千葉に結集しよ！

津田沼へ「本部」が押しかけ混乱が起きたように、佐倉のなかで混乱が起きることは耐えられない。だから「本部」三信ピルの連中にはオルグにきてもらいたくない。という土屋粹らの願望も聞き入れず、九月二十五日、三信ピルに常駐している革マル分子村上以下多数が佐倉機関区へ押しかけてきました。

翌二六日早朝には、革マル分子小室、山崎某が銚子運転区へ押しつけてきました。彼らは、またまた挑発的言辞をもつて暴力問題をデッチ上げ、当局に動労千葉への弾圧処分を要請を狙ってきたのですが、居合わせた動労千葉組合員の原則的対応によつて目的も果たせずスゴスゴとひきあげていきました。

これは、「本部」反動分子が第三六回(名古屋)全国大会むけに「佐倉」八四名で業務再開、銚子も近々再建と打ち出したままではよいが、現実には、佐倉で八四名の過半数も集められず、銚子再建も遅々として進まないなかであつて、焦りからられて、佐倉、銚子に混乱をひき起し、反動分子特有のデマ宣伝をもつて反動労千葉感情をあおりたて、動労千葉へ未結集の部分を「本部」派にひきずりこもうとするこんたんはミエミエです。

「支部業務再開」に名をかりた 組合私物化

佐倉機関区に働くみなさん！

「日刊」五四一号に明らかにした通り、動労千葉は、運転職場に真に責任を持つ組織として全力で「五五・一〇ダイ改」斗争を取組んできました。

国鉄当局の客貨分離策動を許さず、「五五・一〇」が「五六・三」燃料輸送要員の生み出しの攻撃であるのとらえ、全支部での非協力斗争を展開してきました。その結果、休業四、公休一、予備一の計六名と検査係一名の要員バックをかちとり、来年三月燃料輸送延長攻撃に大きなクサビをうちこむことに成功しました。

これに対し「本部」派土屋粹らは一体なにをしたのでしうか。

「執行委員会」すらも開かず、もとより「組合員」からの要求も一切聞かず、独断で局交渉を進め交渉経過すらも報告しないというデタラメな組織運営をしています。組合員の意見すらもきかないこのやり方こそ組織の私物化、ひきまわしの最たるものではないでしょうか。そして「俺達は動労千葉に敵対はしない」と言いつつ土屋粹らは、実際には新潟地本等々の大会へ出向き、「佐倉支部八〇余名は一層団結を強化してがんばっている」と等と挨拶しては、動労千葉破壊を画策しているのです。

こうして組合をひきまわし、陰にまわつて卑劣

な行為にはしる、「本部」派土屋粹らに佐倉の職場と労働条件をまかせてよいのでしょうか。

銚子の利益を真に守る者は誰か

銚子運転区に働くみなさん。

銚子運転区の乗務仕業が成田・千葉運転区・津田沼支部へ乗り入れていているように、相互の関係がある以上、動労千葉に結集し共に職場や労働条件を守り改善して行くことが最良の道であると訴えてきました。

しかしこの点が理解されず、「本部」反動分子のデマ宣伝に乗せられた一部の人々によつて銚子はあらぬ方向へと流されようとしています。それは従来からの「銚子は中立であり、分裂してはいけない」といわれてきましたが、現状は、「本部」から組織対策費をもらつて、地区毎に選別的に呼び集めた人々で会合をもつています。これは結果として銚子を分裂させようとする動きそのものではないでしょうか。

佐倉で土屋粹らが、ボーリング大会や花見の一杯会等と称して地区毎に会合をもち、「本部」から組織対策費をうけとり、参加した人はいつものまにか「本部」派組合員にされていたやり方と全く同じです。

今こそ銚子の利益を真に守る者は誰かを考えて進んでいこうではありませんか。